

まこと 後援会

# さくま誠 便

2017年新春号  
名寄市西5南12  
さくま誠 後援会  
☎ 01654-3-9260  
発行責任者  
菅野 孝

## 宗谷線維持と観光の充実を

平成28年度の第4回定例会は、11月30日～12月16日の日程で開催され30件の議案を審議するとともに、介護人材確保緊急対策費事業費などの追加補正予算を可決。一般質問では14人が市政の課題について質問しました。

佐久間議員は12月14日に一般質問にたち、①観光事業の充実について、②宗谷本線の維持・存続をはかる取組について、③再生可能エネルギーの活用についての3項目7点について質問し市の対応を求めました。

### 北の天文字焼きの宣伝は

問 北の天文字焼きが現在配布されているパンフレットに掲載されていない。また、雪質日本一フェスと来年同時期開催でないのは何故か？

火文字のギネス挑戦への支援策について伺う。

答 パンフレットの紙面は市の担当も内容について確認を



行っている。掲載されていないことに関し反省し来年から掲載する。今年度は開催時期が違つが、雪質日本一フェスと連動した周知PRが図られ

るよう働きかけをして参りたい。



「ギネス挑戦を支える会」が発足したと聞いており、要請が

あれば対応を検討して参りたい。

問 ピヤシリ山の夏季間の活用として低山登山をPRしてはどうか。

答 有効な資源であり、受け入れ体制、そして地域産業の振興に結び付けて行くよう観光協会、営業戦略室、振興公社で協議しご提案に添えていきたい。

## 三期成会と連携

### 宗谷線維持・存続で

問 宗谷線の維持で九月以降の要請等での特徴的な経過と今後の活動の視点、安定的な鉄路の維持運営について経営安定基金の運用益を国に当初策定の五〇〇億をまず担保させ、物流路線としての位置づ

け、インバウンドなどでの利用を沿線自治体と連携し進める事が必要ではないか？

答 旭川市が中心となり、上川、宗谷、オホーツク圏の期成会と連携し取り組む動きが出てきた。国にJRRへの支援について要望すると共に、物流の視点、インバウンドの観点からも考えていく事なども必要だ。ヨーロッパ等ではサイクリングでの自転車を列車に積込利用すること等が普通にやられている。

サイクリングツーリズムとしてこれら有益なことも観光協会でも考えられており、提言できるのではないか。

今、北海道のワーキングチームでビジョンを策定しているところであり推移を見守ると共に、粘り強く運動を進めて参りたい。

西



健康で明るく  
素晴らしい年に  
なりますように。

## 再生可能エネルギーの

### 利活用について

問 名寄市の再生可能エネルギー（新エネルギー）施策について、公的施設等でも太陽光発電を一部利用していると思うが、設置箇所数や、効果などの実績等について伺う。

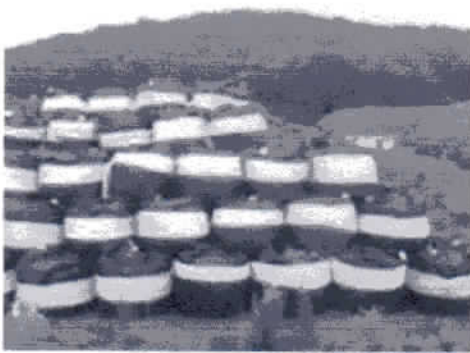
答 名寄小、南小に10kWの太陽光を利用。学校の消費電力の8%を賄っている。一般家庭では上限28万円までこれまで46件補助を実施した。

佐久間議員は、福島第一原発事故で、いまなお全村民避難が続く

飯館村を視察時に通過したときの状況に触れて、「いったん原発事故が起こると、元に戻るまで気の遠くなるほどの歳月を要す。安全で再生可能なエネルギーを活用することは次世代へ引き継ぐ公的施設のランニングコスト削減の観点からも有益なこと」と述べ、一層の研究・検討を求めました。

### ※全村民避難の続く飯館村

（写真左）除染の廃棄物がフレコンバッグに詰められ畑に積み上げられている。



## 総合計画（第二次）

では

11月30日の議員協議会で示された実施計画案では、平成29～30年の前期の個別事業277、165億5605万とすること、中期財政計画で平成29年度は約9億円、平成30年度は約6億円の収支不足が見込まれ、基金を取り崩し対応するとの説明を受けました。12月13日、各年度の事業費、期間等追加された資料に基づき再度質疑が行われました。

## 粒々辛苦

りゅうりゅうしんく



「一番どりは餌にありつく」とのことわざがある。今年は酉年だから、何事も早めの準備を心掛け成果を上げたいものだ▼自然災害が少ない名寄市に、昨年は三度も台風が押し寄せた。少なからずの被害を受けた地区もあり、油断

は禁物である▼初雪も早かった。

十月下旬の雪が、そのまま根雪になり農家の方も苦労されたのではないか▼我家の冬の準備は、雪囲いとタイヤ交換。寒くなってからの冬囲いは嫌なので早めに終わらせ、タイヤも買い替え時期だったので、なじませるため早めの交換をしていたから「憂いなく」冬シーズンを迎えられる。「早めの準備」の恩恵か？▼年末から年始にかけ、我が家には代わるがわる孫たちが来てくれた。下の娘の婿殿は12月下旬の雪で千歳空港の発着が全滅の時、折悪しく東京出張中。▼「パパね、雪で飛行機飛ばなくて帰ってこれないんだって」「三歳の孫（姫）涙をポロツと一粒流してから、気を取り直し「ママを助けてがんばる！」と、キッパリ。足止め2日を経て大好きなパパ、何とか帰還。▼孫たちの成長は早い。末の孫（こちらも姫）はテーブルの縁をかじりながらつかまり立ちの様相。一番目の孫（おにいちゃん）は「太郎のダンスを披露してくれた。▼孫パワーで元気をもらい、今年も市民要望を市政に反映させるために頑張りたい。